



HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE

Race SUPER GT Rd.7
 SUPER GT in KYUSHU 300km RACE
 Date 2015.10.31-11.01
 Race Track AUTOPOLIS
 Team RUNUP Group & DOES GT-R



前戦に続き Q2 進出、13 番手で決勝に期待を繋げる。

スーパー GT 第7戦は、海を渡り大分県のオートポリスサーキットで開催されました。1ヵ月以上のインターバルを挟んだ上、阿蘇の山奥に建設されているサーキットのため、気温や路面温度が前戦の菅生に比べても一気に低くなります。そのため、タイヤ選択が重要なポイントを占めるレースとなります。また、九州はチームや私にとってもホームレースになるため、自然と気合が入りました。

2015.10.31 FREE PRACTICE (フリー走行 10 位 /27 台中) WEATHER : DRY

朝9時の肌寒いコンディションの中、フリー走行がスタートしました。前戦菅生のクラッシュでマシンは大きいダメージを負っていましたが、メカニックさんが約1ヵ月という短い期間でハードワークをこなし、キッチリとマシンを修復してくれたため、走り始めからトラブルなく周回を重ねることが出来ました。

新しいパーツが多いため、慣らしやチェックを兼ねて周回を重ねた後に、田中選手にドライバー交代しセッティングの確認へと移行して行きました。田中選手にタンパーのセッティングなどを行ってもらった後、再び私に交代し、今度は NEW タイヤで予選のシミュレーションや予選セッティングに時間を費やしました。

走り始めが中古タイヤだったということもありますが、NEW タイヤでアタックした結果、一気に約2秒ほどタイムアップし1' 45.541で10番手にタイムアップしました。

続けて、もう少し予選に適していると思われるソフト側のタイヤでアタックを行いましたが、セッション終了間際に時間が足りなかったこともあり、タイムアップは出来ないまま10番手でフリー走行が終了となりました。



2015.10.31 QUALIFYING (公式予選 13 位 /27 台中) WEATHER : DRY

午後になり秋晴れの中、公式予選がスタートします。

今回も私が Q1 を担当させて貰うことになりました。この時点で翌日の決勝は雨が降る予報もあったため、チームによってはウェットタイヤでのレーススタートを予想し、決勝よりも予選のポジションアップに重点を置いたタイヤ選択を行うチームもありました。

しかし、私たちはドライスタートになる可能性や、タイヤの摩耗がきついオートポリスということを考慮し、一発のタイムは出難いですが、レースでのタイムの落ち幅が少ない方のタイヤで予選を闘う決断をしました。

予選がスタートし、まずは13番手以内を目指してウォームアップを開始します。路温も低く、硬いコンパウンドのタイヤなので入念に温めながらアタックした結果、フリー走行から大幅にタイムアップし1' 44.671というタイムで7番手につけ、Q2に進出することが出来ました。

Q2は田中選手にアタックしてもらうことになったのですが、チーム内で色々手違いなどもあり、きちんとアタックが出来ないまま13番手で予選を終えることになってしまいました。



SPONSOR





HIROKI YOSHIDA

OFFICIAL RELEASE



2番手まで順位を上げるものの、天候に翻弄され15位完走。

2015.11.01 RACE (決勝 15位 / 27台中)

WEATHER : DRY → WET

この日は朝から曇り空の中、朝のフリー走行がスタートしました。

この時間は燃料も積み、レースを想定したセッティングで走行を重ねます。すると重い状態でもバランスがよく、4番手タイムを刻むことが出来ました。午後に入り、今にも雨が降り出しそうな天候の中、スタート進行が進められます。今回は私がスタートドライバーを担当することになったのですが、朝のフリー走行でレース想定でのバランスの良さは確認出来ていたのと、スタートタイヤがロングスリットに適したタイヤだったため、私のステイメントを出れるだけ引っ張る作戦になりました。フォーメーションラップを終え、いよいよ決勝レースのスタートです。スタートと同時にどンドンブッシュし、1周目に2台のマシンをオーバーテイクします。



さらにそこから周回を重ねる度にペースを上げることができ、BMW、ランボルギーニ、SLSとオーバーテイクし、15周終了時には6番手につけます。

約20周目には、前を走っていたGT-Rがピットインし、5番手へ。そこから3台による2番手争いに追いつき、前を走っていたBRZに仕掛け始めたのですが、ここで予報通り雨が降り始めます。

ワイパーが必要になるような小雨の中での走行を強いられていたのですが、この際に一度抜いたSLSに抜き返されてしまいます。しかし、この日チームが用意してくれたGT-Rはこのサーキットにマッチしていたので、ここからBRZ、Audi、CR-Zとオーバーテイクすることができ、さらにSLSがピットインしたこともあって、2番手までポジションを上げることに成功します。この後もペースを落とすことなく周回を重ね、38周目にピットインします。この時、雨が降り続けていたことや、残り周回数も約1/3となっていたため、チームと話し、タイヤ無交換で田中選手にバトンタッチすることになりました。

ピット作業で少しロスがあったものの無事にピットアウトし、5番手付近でコースに復帰します。田中選手はタイヤが温まっていることもあり、良いペースで周回を重ねてもらっていましたが、5周を過ぎたあたりからリアのグリップが急激に落ちてきてしまい、徐々にペースも落ちてきてしまいます。それでもそのロスを最小限に抑えて踏ん張ってもらっていたのですが、残り10周をきったところで500クラスと接触があり、ポジションを下げるようになってしまいました。どうにか復帰してもらい、苦しいタイヤで踏ん張ってもらった結果、15位でチェッカーとなりました。今回はチームとして、予選、決勝と速さを見せることが出来たと思います。しかし、走行中にマシンやタイヤの状況を的確に把握し、正しい状態をチームに伝えることが出来なかったのは自分のミスです。その判断を的確に行えば、もっと違った結果に出来たと思います。

今シーズンは次の茂木が最終戦になりますが、この部分は今後の課題として取り組みたいと思います。残り1戦、今シーズンの集大成に出来るようチーム一丸となって茂木戦に挑みますので、引き続き、ご指導、ご支援よろしくお願い致します。

 吉田 広樹



SPONSOR

